

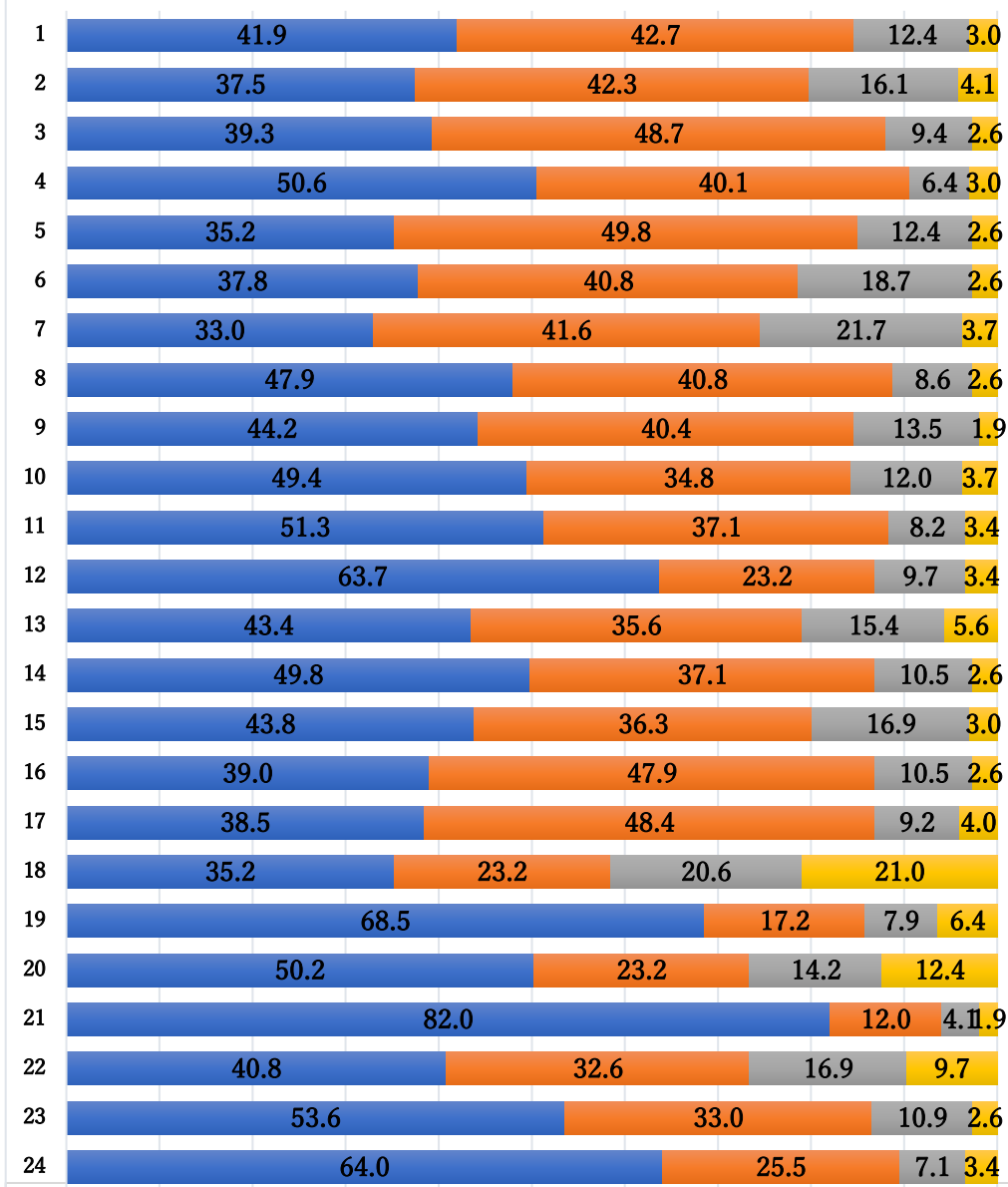
学校教育に関するアンケート」結果について

本校の教育活動をより充実したものにするため、学校運営、教育活動、子どもたちの様子について、保護者の皆様に「学校教育に関するアンケート」をお願いしました。ご協力ありがとうございました。学校で実施した子どもたちのアンケートとともに結果の報告をいたします。今回の結果をもとに、学校評価を行い、来年度からの学校運営に生かしてまいります。

【児童アンケート】

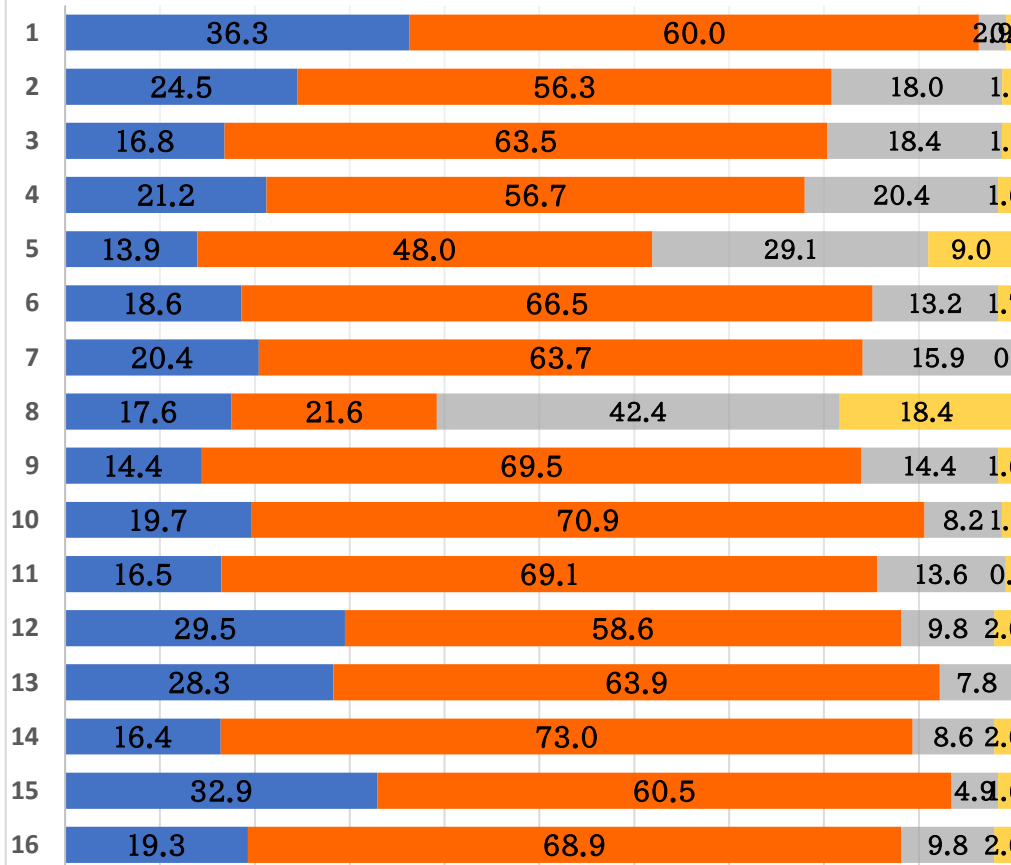
1	学校へ行くのは楽しい。
2	自分から進んであいさつをしている。
3	チャイムの合図を守り、授業と休み時間の区別をつけている。
4	係や当番など、自分の仕事は責任をもってやりとげている。
5	時と場に応じたていねいな言葉づかいをしている。
6	授業は、楽しくてよくわかる。
7	自分から進んで学習に取り組んでいる。
8	この1年で、漢字や計算の力がついてきた。
9	この1年で、よく考えたり伝え合ったりする力がついてきた。
10	グループで話し合ったり課題を解決したりする学習はおもしろい。
11	校外学習やゲストティーチャーによる学習はおもしろい。
12	タブレットを使った学習はおもしろい。
13	自分にはよいところがある。
14	明るく前向きに生活することができる。
15	あきらめないで最後までがんばることができる。
16	友達や周りの人の気持ちを考えることができる。
17	自分も友達もよりよくなるように考えて行動することができる。
18	進んで読書をしている。
19	運動したり体を動かしたりすることが好きだ。
20	晴れの日には、一日に1回は外で遊んでいる。
21	朝ごはんを毎日食べている。
22	給食を好ききらいしたり残したりしないで食べている。
23	けがや病気をしないように安全に生活している。
24	困ったときに相談できる先生や友達がいる。

A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない



【保護者アンケート】

1	子どもは、楽しく充実した様子で学校生活を送っている
2	子どもは、進んであいさつをしている。
3	子どもは、時と場に応じたていねいな言葉づかいができる。
4	子どもは、学校で学習したことをよく理解している。
5	子どもは、自分から進んで学習に取り組んでいる。
6	学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる。
7	子どもは、自分のよいところを知っている。
8	子どもは、進んで読書をしている。
9	学校は、子どもの心を育てる教育を行っている。
10	学校は、互いに認め合い大切にしよう仲間づくりに取り組んでいる。
11	学校は、子どもの体力・運動能力の向上に努めている。
12	学校は、食育を通して、健康な体や心を育てようとしている。
13	学校は、安全で安心な学校生活ができるように努めている。
14	学校は、学校の教育目標や教育方針にそって、保護者の願いにこたえる教育活動を行おうとしている。
15	学校は、保護者からの連絡や相談に、誠実に対応しようとしている。
16	学校は、子どもたちや学校の様子などを、お知らせやHPなどにより適切に伝えている。



1 基本的な生活習慣

(1) 児童アンケート (%)

番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
1	学校へ行くのは楽しい。	84.6	15.4
2	自分から進んであいさつをしている	79.8	20.2
3	チャイムの合図を守り授業と休み時間の区別をつけている	88.0	12.0
4	係や当番など自分の仕事は責任をもってやりとげている	90.6	9.4
5	時と場に応じたいい言葉づかいをしている	85.0	15.0

(2) 保護者アンケート (%)

1	子どもは、楽しく充実した様子で学校生活を送っている	96.3	3.7
2	子どもは、進んであいさつをしている	80.8	19.2
3	子どもは、時と場に応じたいい言葉づかいができる	80.3	19.7

児童回答においては「学校へ行くのは楽しい」の項目が前年度と比較し、1.7%高くなっている。学校が児童にとって楽しい場所と感じられていることは何よりも重要なことであり、今後もさらに楽しい場所になるよう取り組んでいく。しかし、「自分から進んであいさつをしている」と答える児童の割合は、前年度より6.7%低くなっている。学校ではあいさつを推進する取り組みや運動、教室での声かけを行い、来客の際にも元気なあいさつが聞こえる場面もあるが、「自分から進んで」という視点から考えると足りないと考えている児童がいると思われる。引き続き、自然とあいさつが交わされる学校を目指していきたい。

保護者回答は全ての項目において昨年度よりも高くなった。2の「あいさつ」の項目に関しても高くなっており、児童自身の「あいさつ」に関する割合は下がっているが、保護者や教員の印象では昨年度と比較し児童のあいさつは増えていると感じている。児童の「あいさつ」に関する意識が高くなっているからこそ、児童自身の自己評価が厳しくなっているのではないかと考えられる。

今後も「学校へ行くのが楽しい」と児童が感じられる学校を目指し、さらなる教育活動の充実や研修を図っていききたい。また、「自分から進んであいさつをしている」児童の増加を目指すために、細やかな声かけやあいさつ運動、教員からの積極的なあいさつなど、学校全体や各学年のあいさつに関する取り組みを今年度同様に進めていく。さらに、今年度からスタートした昭和スタイルに「時間を守る」の項目を位置づけることで教員の「時間を守る指導」の意識が100%となり、来年度はその結果が児童自身の時間を守る意識の向上にも繋がるようにしていきたい。

2 確かな学力

(1) 児童アンケート (%)

	内 容	あてはまる	あてはまらない
6	授業は楽しくてよくわかる	78.7	21.3
7	自分から進んで学習に取り組んでいる	74.5	25.5
8	この1年で漢字や計算の力がついてきた	88.8	11.2
9	この1年でよく考えたり伝え合ったりする力がついてきた	84.6	15.4
10	グループで話し合ったり課題を解決したりする学習はおもしろい	84.3	15.7
11	校外学習やゲストティーチャーによる学習はおもしろい	88.4	11.6
12	タブレットを使った学習はおもしろい	86.9	13.1

(2) 保護者アンケート (%)

4	子どもは、学校で学習したことをよく理解している	78.0	22.0
5	子どもは、自分から進んで学習に取り組んでいる	61.9	38.1
6	学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる	85.1	14.9

児童項目では、ほぼ全ての項目で「あてはまる」が80%を超え、肯定的な評価をしている。特に「11. 校外学習やゲストティーチャーによる学習はおもしろい」の評価が高く、各学年で児童の実態に応じた学習形態の工夫を行っている成果であると考えられる。また「8. この1年で漢字や計算の力がついてきた」と感じている児童も多く、着実に基礎的な学力が身につけてきていると考えられる。そして「9. この1年でよく考えたり伝え合ったりする力がついてきた」「10. グループで話し合ったり課題を解決したりする学習はおもしろい」では、ともに85%に近い児童が肯定的な評価をしている。これは、本校で今年度から進めている、子どもたちに身につけさせたい力をもとにして考案した「昭和スタイル」を授業に取り入れてきた成果であると考えられる。変化の激しい今後の社会を力強く生き抜くために、子どもたちには、自ら課題を見つけ、解決に向けて進んで取り組んでいく主体的な学び方を身につけてほしいと考えている。

保護者項目の「5. 子どもたちは、自分から進んで学習に取り組んでいる」で約62%と肯定的な評価が少し低くなっていることから、「昭和スタイル」の授業で児童が主体性を発揮している学びを、教室だけでなく家庭でも進んで取り組めるように「家庭学習の手引き」等も活用しながら、工夫していきたい。

令和8年度も引き続き、全体指導の場における「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりと、個々の能力に応じた「個別最適な学びと協働的な学び」を目指した授業の充実を「昭和スタイル」を生かしながら継続して取り組み、学習効果の向上をさらに図っていききたい。

3 豊かな心・社会性

(1) 児童アンケート (%)

	内 容	あてはまる	あてはまらない
13	自分にはよいところがある	79.0	21.0
14	明るく前向きに生活することができる	86.9	13.1
15	あきらめないで最後までがんばることができる	80.2	19.8
16	友達や周りの人の気持ちを考えることができる	86.9	13.1
17	自分も友達もよりよくなるように考えて行動することができる	86.8	13.2
18	進んで読書をしている。	58.4	41.6

(2) 保護者アンケート (%)

7	子どもは、自分のよいところを知っている	84.1	15.9
8	子どもは、進んで読書をしている	39.2	60.8
9	学校は、子どもの心を育てる教育を行っている	84.0	16.0
10	学校は、互いに認め合い大切に合う仲間づくりに取り組んでいる	90.6	9.4

児童、保護者、教員ともに読書に関する項目が最も低く、昨年度からも大きく減少している。その原因の一つとして、タブレットの普及による読書離れが考えられる。例えば、授業における調べ学習などでは、本などの資料よりも、タブレットの活用を多く取り入れている現状がある。また、児童からは「休み時間は、他にしたいことがあり、本を読む時間がない。」というような声も聞こえてくる。図書委員会による読書週間の設定、保護者やなかよし班活動の中での読み聞かせなど多方面から読書の推進に取り組んでいるが、読書習慣の定着には、まだ不十分であると言える。これらのことから、読書習慣を向上させるためには、日常生活や授業の中で意図的に「読書時間」を設けたり、「多読賞」や「本の紹介コーナー」を設けたりして、児童が進んで読書をしようとする活動をしくむ積極的な働きかけが必要であると考えられる。

児童の(14)(16)の項目に関しては、昨年度より増えている。保護者の(7)(10)の項目に関しても、児童同様、昨年度より増えている。今年度も、全校での取り組みとして各学年での「よいところみつけの木」や縦割り班(異年齢集団)活動、各学級での「キラキラさん」や学級会活動等を通して、児童の心の成長を促してきた。これらの取り組みが、昨年度からの向上につながったと考えられる。しかしながら、児童の(13)(15)の項目に関しては、昨年度より減少が見られる。自分への自信や、根気強さが身に付いていないと考えられる。また、授業の中では、児童同士の学び合いやスモールステップによる授業展開をより一層充実させていく必要があるのではないかと考える。

児童の豊かな心を育み、さらなる社会性の向上を目指して、教職員間で連携し、一丸となって、道徳教育の充実を図るとともに、読書活動の推進に取り組んでいきたい。

4 健やかな体・安心安全

(1) 児童アンケート (%)

	内 容	あてはまる	あてはまらない
19	運動したり体を動かしたりすることが好きだ	85.8	14.2
20	晴れの日には一日に1回は外で遊んでいる	73.4	26.6
21	朝ごはんを毎日食べている。	94.0	6.0
22	給食を好ききらいしたり残したりしないで食べている	73.4	26.6
23	けがや病気をしないように安全に生活している	86.5	13.5
24	困ったときに相談できる先生や友達がいる	89.5	10.5

(2) 保護者アンケート (%)

11	学校は、子どもの体力・運動能力の向上に努めている	85.6	14.4
12	学校は、食育を通して、健康な体や心を育てようとしている	88.1	11.9
13	学校は、安全で安心な学校生活ができるように努めている	92.2	7.8

児童の生活面では、「困った時に相談できる先生や友達がいる」の肯定的な評価が昨年度より4ポイント上昇しており、教員による「どの子どもにとっても居場所となるよう信頼関係を築いている」という取組の成果が表れていると考えられる。給食に関しては、「朝ごはんを毎日食べている」が94ポイントと高い水準を維持している。生活習慣チェック票を活用した振り返りや、規則正しい生活を意識させる継続的な指導の効果が見える。また、2・4・6年生を対象に、栄養教諭と担任が連携した発達段階に応じた食育授業を実施し、その学びを食育だよりとして家庭に発信することで、家庭との連携も図っている。「給食を残さず食べている」についても上昇傾向にあり、給食委員会児童による完食カードの取組が、意欲的に食べようとする姿につながっている。運動面では、「運動することが好きだ」の評価はやや低下したものの、多くの児童が運動を肯定的に捉えている。また、「安全に生活している」意識も高く、遊具の使い方や清潔への配慮など、健康を意識した行動が日常的に見られる。

今後もさらに、生活・食・運動の取組を一体的に進めていきたい。また、児童が安心して過ごせる人間関係を基盤とし、心身の不調を早期に相談・共有できる環境をさらに充実させたい。さらに、発達段階に応じた食育を継続し、家庭と連携しながら、児童一人一人がよりよい食生活を実践できるようにしていきたい。あわせて、運動に親しむ機会を日常の中で保障し、安全や健康を意識して行動する経験を積み重ねることで、児童が主体的に健やかな体づくりに取り組めるようにしたい。

5 家庭・地域との連携

保護者アンケート (%)

	内 容	あてはまる	あてはまらない
14	学校は、学校の教育目標や教育方針に沿って保護者の願いにこたえる教育活動を行おうとしている	89.3	10.7
15	学校は、保護者からの連絡や相談に、誠実に対応しようとしている	93.4	6.6
16	学校は、子どもたちや学校の様子などをお知らせやHPなどにより適切に伝えている	88.1	11.9

「14 学校は、学校の教育目標や教育方針に沿って保護者の願いにこたえる教育活動を行おうとしている」「15 学校は保護者からの連絡や相談に誠実に対応している」において、昨年同様、アンケート結果は概ね良好である。さらに昨年度と比べ多少ではあるが肯定的な回答が増加している。今後も全教職員あげて、保護者に寄り添った迅速かつ適切な対応を心がけていきたい。自由記述では、児童の問題行動への対応や学級による指導内容の違い、情報発信、タブレットに関する問題等複数のご指摘をいただいた。また、子どもたちのために、教員が安定した指導を行うことができるよう、働き方を改善する必要があるといった趣旨のご意見もいただいた。

保護者との連携を一層強化し、迅速かつ丁寧な対応を継続するとともに、「すぐーる」を有効活用し、情報発信の方法や内容をより分かりやすく、適切に届く仕組みづくりを進めたい。また、児童の問題行動への対応については、校内での共通理解を深め、指導の一貫性を確保するための協議を充実させたい。教員の働き方に関するご意見を踏まえ、業務の精選や効率化を行い、教員が教育活動に専念できる環境整備を進めるとともに教職員間の協働体制を強化し、組織として持続可能な働き方を実現することで、児童への安定した指導につなげていきたい。